

二松學舎 松苓會報



CONTENTS

- P2** 松苓会長挨拶・二松學舎理事長挨拶
- P3** 松苓会役員名簿
- P4** 松苓会支部長名簿
- P5** 平成23年度第16回松苓会定期総会
- P7** 平成22年度松苓会収支決算
平成23年度松苓会収支予算
- P8** 松苓会各支部総会報告
北海道支部、岩手県支部、秋田県支部
宮城県支部、山形県支部、埼玉県支部
東京都支部、千葉県支部、神奈川県支部
長野県支部、島根県支部、大分県支部
宮崎県支部
- P14** 平成23年度ホームカミングデー
- P15** 各委員会報告・東日本大震災義援金について
- P16** 水木かおる氏旧蔵資料・柴田周蔵氏訃報
編集後記

No.45

2011年12月10日

会長就任のご挨拶

松苓会 会長 神津 賢一郎

東日本大震災では多くの方が罹災されました。その中に松苓会員の方々も罹災されました。心よりお見舞い申し上げます。

さて松苓会の発展と大学発展に寄



プロフィール
27回 高校教員として勤務。第27回松苓会創立60周年記念大会で、松苓会副会長に就任。松苓会創立60周年記念大会で、松苓会副会長に就任。松苓会創立60周年記念大会で、松苓会副会長に就任。

与できる明るい展望を抱いて会長に就任いたしました。六月の総会で再度会長として承認されましたが、紛糾を抱えた状態から脱却して正常な機能を果たすよう託されたものと思えます。このことを重く受けとめ、責任の重大さを感じます。職責を全うすべく誠心誠意、尽力する所存でございます。

の目的です。この目的から、外れなような心して、これからは清新な息吹きで改革を進めていくために、会長その他の役員は若返りと一新をはかりました。松苓会発展のために活躍することを期待しております。

展してこそ松苓会の存在意義があると思えます。そして入学した学生が、この大学に入学してよかった、二松学舎を卒業してよかったと誇りをもてるような教育を大学に望みたい。先に「長期ビジョンの意見募集」があったがこれからも大学発展のために提言をしていきたい。

未来を担う茯苓の育成を！

学校法人二松学舎 理事長 水戸 英則

この度、理事長に選任されました。諸先輩方が築いてきた長い伝統に裏打ちされた学校法人二松学舎（以下本学）の理事長として、身に余る光栄と同時にその責任の重さを

改めて感じている次第です。

本学は、来年初立百三十五周年を迎えます。創立者三島中洲翁の建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」を念頭に置きつつ、この精神をグローバル化、情報化の時代の人材養成へどう適合させていくか、「温故知新」の教えを今後の経営の指針として行きたいと考えております。

一方、松苓会は昭和六年の発足以来、八十年の歴史を持った伝統ある同窓会です。時の専門学校長山田準が創設者三島中洲の七言絶句「茯苓

ヲ多産シテ世ノ弊ヲ医ヤス」の中の茯苓と二松の松を掛け命名したとされており、爾来、二松学舎の卒業生は「社会の中堅として一世の木鐸として時弊を匡正し国家擁護する人中の茯苓となる」ことを基本に養成され、二松の精神が込められた茯苓、すなわち卒業生総数は二万五千余名に上っております。

課程を、この情勢変化に応じて、変革して参ります。

さて、現在は中国など東アジアが世界経済を主導していく時代になってきております。本学の建学の精神「東洋の精神」は不変であり、この考え方を根底にして情勢変化に対応した人材の育成を目指します。そのためには教育環境をさらに整備・充実させ、大学、高校、中学校の教育

意でこれに着実に実行していき、十年後大きく飛躍した大学、高校、中学校の実現を図り、本学の未来を背負う新たな茯苓を育てて行きたいと考えております。今後とも松苓会の皆様方のご支援・ご指導をお願いする所存です。



プロフィール
九州大学卒。昭和十一年、松苓会創立。松苓会副会長に就任。松苓会創立60周年記念大会で、松苓会副会長に就任。

松苓会役員名簿

平成23年10月1日現在

顧問	佐古 純一郎 (11回卒)	相談役	水戸 英 則
〃	佐佐木 鍾三郎 (15回卒)		(学校法人 二松學舎 理事長)
〃	雨海 博 洋 (19回卒)	〃	渡 辺 和 則
〃	末吉 榮 三 (12回卒)		(二松學舎大学 学長)

本部役員 (14名) 事務局 (1名)

	氏 名	卒回
会 長	神 津 賢一郎	27
副 会 長	大 地 武 雄	院博10
〃	廣 田 克 己	38
幹 事 長	神 河 秀 春	47
監 事	奥 井 基 繼	院修14
〃	磯 水 絵	41
常任幹事	千 葉 仁	27
〃	新 井 喜 義	37
〃	手 島 茂 樹	特
〃	小 林 憲 二	38
〃	佐 藤 修	41
〃	井 上 和 男	42
〃	小 町 邦 明	49
〃	助 川 忠 弘	政3
事務局長	島 山 幸 治	37

幹 事(17名)

北 海 道	北海道	山 崎 郁 紀	36
東 北	山 形	齋 藤 裕	38
関 東	茨 城	那 花 隼	36
近 畿	兵 庫	武 内 昭 德	47
中 国	山 口	俵 田 賢 嗣	40
四 国	香 川	大 西 邦 美	40
九 州	大 分	加 茂 忍	36
沖 縄	沖 縄	金 城 健 一	38
	茨 城	芹 川 哲 世	37
	千 葉	岡 村 幸 男	42
	埼 玉	五十嵐 清	44
	東 京	高 柳 幸 雄	49
	東 京	齋 藤 祐 一	51
	茨 城	西 園 隆 士	59
	千 葉	志 村 孝	59
	埼 玉	小 西 明 徳	60
	埼 玉	大 野 砂 織	政5

松苓会支部長名簿

平成23年9月1日現在

支 部	氏 名	卒回		
東 北	北海道 増井義昭 39			
	青森 江刺家 昭均 40			
	岩手 宮本義孝 32			
	宮城 千葉葉仁 27			
	秋田 田三浦基裕 41			
	山形 齋藤村博 32			
	福島 北花内進 36			
	関 東	茨城 木那寺喜義 49		
		栃群馬 新井喜哲 37		
		埼玉 新町田 夫 42		
千葉 辻井上 将一 45				
東奈川 井野光 一男 42				
神奈川 平植松 治 40				
中 部		山梨 植松永保 31		
		長野 野関典作 35		
		新潟 坂井福貴 42		
		富山 小菅野成也 47		
	石川 井中道佳宏 50			
	福岐 井内秀人 55			
	静冈 永井秀陵 38			
	愛知 新海次守 30			
	近 畿	三重 新稻垣武良 33		
		滋賀 角井 嗣暢 49		
京都 都 道 39				
大阪 浅田資昭 47				
兵庫 武内 徳一 39				
奈良 武辻明治 47				
和歌山 小江利章 隆公 38				
中 国		鳥根 小角 仁 39		
		岡山 山小正 敬 39		
		広島 山平岡才二 郎 26		
	山口 平俵田賢 嗣 40			
	四 国	徳島 大倉明子 47		
		香川 大大西邦美 40		
		愛媛 上田善達 38		
		高知 坂本善和 生 37		
		九 州	福岡 永淵和道 彦 36	
			佐賀 永吉原一 寛 39	
長崎 黒瀬孝志 郎 38				
熊本 塩永英 文 52				
大分 加茂宣忍 36				
宮崎 加宮崎幸 41				
鹿児島 岡元正 昭 31				
沖縄 金城 一 38				

第十六回 松苓会定期総会

平成二十三年六月十一日

役員改選・ 会則改正を主として

平成二十三年度松苓会定期総会が六月十一日(土)の十三時から二松學舎大学十一階の会議室で開催された。

二十三年度総会は、来賓として大山徳高理事長・渡辺和則学長をお迎えして行われた。全国から二十六支部の支部長が参加した。

本年度の総会は松苓会役員改選・会則改正が主であったが、すべて異議なく承認された。

総会開催前には、懸案であった支部活動活性化のための支部活動報告が千葉・神奈川両支部からなされた。

支部活動報告は、昨年度総会終了後に行う予定であったが、時間不足のため流れた経緯があり、本年度実施できたことは大きな意義があるものと思われる。

出席者は次の通りである。

◎来賓
大山 徳高理事長

◎本
部
渡辺 和則学長
神津賢一郎会長

大地 武雄幹事長

緑川 佑介事務局長

山岸 英毅監事

◎常
任
幹
事

丸山祐三郎

畑 功

平岡才二郎

小林 憲二

奥井 基繼

五十嵐 清

神河 秀春

廣田 克己

◎幹
事

山崎 郁紀

小林 公雄

小町 邦明

西園 隆士

◎支
部
長

奥村悠二郎(北海道)

宮本 義孝(岩手)

千葉 仁(宮城)

斎藤 裕(山形)

北村 博(福島)

寺内 進(栃木)

青木 一弥(埼玉・代理)

平成二十三年度人事異動

支部長交代

富山県支部

新任 小島 貴雄(47回)

退任 芳尾 晴喜

栃木県支部

新任 寺内 進(49回)

退任 桜井 哲夫

岐阜県支部

新任 竹内 秀人(55回)

退任 太鼓 留次

議案審議

一、平成二十二年

松苓会事業報告

緑川事務局長から、平成二十二年
度事業報告並びに支部活動報告があ
った。

主な事業報告は次の通りである。

松苓会役員候補者選考委員会を開
催したこと。松苓会室の移転に伴
い、たびたび三役会議で検討の上、
移転業務を遂行したこと。そして、
三月十一日に発生した東日本大震災
に対する募金活動を行ったこと。
支部総会を開催した支部は次の通
りである。

北海道・岩手県・秋田県・長野
県・群馬県・千葉県・東京都・神奈
川県・静岡県・広島県・近畿連絡協

辻 将一(千葉)
木村 正雄(東京)
植松 永雄(山梨)
関 保典(長野)
小島 貴雄(富山)
中道 佳宏(福井)
竹内 秀人(岐阜)
永井 陵次(静岡)
武内 昭徳(兵庫)
小谷 章公(鳥取)
江角 仁(島根)
大倉 明子(徳島)
永淵 道彦(福岡)
上田 善達(愛媛)
加茂 忍(大分)
黒瀬孝志郎(長崎)
宮崎 宣幸(宮崎)
岡元 亮子(鹿児島・代理)
金城 健一(沖縄)
◎事
務
局
畠山 幸治
(順不同 敬称略)

総会は小町幹事の司会により、開
会が宣言された。続いて物故者への
黙祷があった。
緑川事務局長から、構成員七十三
名中、出席者四十四名、委任状二十
一名の合計六十五名で総会が成立す
るとの報告があり、確認された。
会長挨拶の後、大山理事長・渡辺学
長から挨拶を頂いた。
五十嵐常任幹事を議長に選出の
後、書記に小林常任幹事・西園幹事
が任命された。

議会・大分県。山形県支部総会の追加があった。
なお、北海道は道南分会・道東分会も開催した。

二、平成二十二年度松苓会収支決算報告・会計監査報告

緑川事務局長から、収支決算報告、続いて山岸監事から会計監査報告があった。

新卒者終身会費の決算額が当初予算額を下回った理由として、現経済状況下における就職浪人等の増加が考えられる。また、大地幹事長より、今後経常費積立金の一部を松苓会積立金に入れて処理するとの報告があった。審議の結果、異議なく承認した。

三、平成二十三年度松苓会事業計画(案)・松苓会予算(案)

緑川事務局長から、平成二十三年度の事業計画について説明があった。

活性化委員会の提案により、支部活動を深めるための施策として支部長などの携帯電話番号・Eメールの活用が必要である。また、松苓会奨学金は昨年度まで給付であったが、今年度から「貸与」にする。

予算(案)については、松苓会積立金の科目名称を終身会員積立金とする。また、大地幹事長より、不足

の場合は周年事業積立金より補填する場合もある旨提案された。審議の結果、異議なく承認した。

四、松苓会役員改選について

神津会長から、役員候補者選考委員会より次のように会長・副会長・監事の候補者が選出されたとの報告があり、承認した。

- 会長 神津賢一郎
- 副会長 大地 武雄
- 廣田 克己
- 監事 磯 水絵
- 奥井 基繼

五、学校法人二松學舎評議員の選考について

神津会長より、次の二名を評議員として推薦され、異議なく承認した。

- 大地 武雄副会長
- 廣田 克己副会長

六、二松學舎松苓会会則の改正について

大地幹事長から、松苓会会則第23条(終身会員積立金)を新たに挿入することが提案された。

第23条 本会の終身会員積立金は、いかなる理由があっても終身会員サービス以外への用途を禁ずる。これに伴い、以下の条文の数字は

一つずつ繰り下がる。

また、会則第25条3項「事務局には、事務局長その他の職員を置くことができる。」の文言について「事務局には、会長指名の事務局長、その他の職員を置く。」に変更することが提案された。審議の結果、異議なく承認された。

七、二松學舎松苓会奨学金貸与規程について

大地幹事長から、松苓会奨学金基金を給付から貸与に変更することにあたり「奨学金規程」を設けることについて説明があり、承認した。

(報告事項)

①東日本大震災の義援金について
緑川事務局長から、東日本大震災の義援金を各支部にお願いした。最初は日本赤十字社に依頼する予定であったが、本学の学生で被災を受けた者が居ることから学長の依頼により、被災を受けた学生に給付することとした。

②ホームカミングデーの進捗状況について
大地幹事長から、本年のホームカミングデーは十一月三日の学園祭当日に開催することとした。

支部活動活性化事例報告

定期総会当日、総会に先立ち、支部活動活性化のための事例報告が千葉県・神奈川県との二支部よりあった。

概略は、次の通り。

- 一、支部規約の制定
(目的・組織・役員・会計等)
- 二、年間を通じた事業計画案
(会員同士の懇親会・大学より教授を招いての講演会・歴史探訪旅行・文学散歩・賀詞交歓会、そして会報発行等、支部として可能と思われるものを一選定して実施してみる)
- 三、役員会・幹事会等開催
- 四、支部総会の開催及び告知方法
(電話・FAX・文書連絡・支部会報での告知及び出欠確認)
- 五、松苓会本部への支部総会開催連絡
(開催連絡と併せて本部役員への派遣依頼又は講師依頼等)
- 六、支部総会開催報告
(「二松學舎松苓会報」掲載のため支部総会報告掲載記事の連絡及び写真提供等)
- 七、二支部とも、会員の把握及び参加者数の増加に向けた取り組みが課題となっていたとの報告があった。

平成23年度

松苓会会計収支予算

(平成23年4月1日～24年3月31日)

◎収入の部		(単位：円)
		予算額
前年度繰越金		1,928,233
入会金		3,665,000
	小計	5,593,233
会費		
新卒者終身会費		9,900,000
既卒者終身会費		500,000
	小計	10,400,000
利息		25,000
雑収入		0
	収入の部合計	16,018,233
◎支出の部		
事業費		
卒業生懇親会費		800,000
松苓会報等発行		
印刷・制作費		1,000,000
発送費		900,000
「茯苓」発行費		800,000
	小計	2,700,000
支部助成		
支部運営助成費		1,500,000
支部報発行助成費		500,000
支部強化助成費		300,000
	小計	2,300,000
母校支援事業		
教育振興資金助成費		1,000,000
教育事業後援費		200,000
松苓会奨学基金		1,000,000
教育研究大会助成費		0
	小計	2,200,000
在学生支援事業		
学園祭助成費		50,000
課外活動助成費		200,000
県人会助成費		200,000
卒業記念品費		800,000
	小計	1,250,000
	事業費合計	9,250,000
運営費		
会議費		230,000
旅費・交通費		2,000,000
職務費		450,000
通信費		130,000
備品費		500,000
印刷費		100,000
消耗品費		100,000
慶弔費		50,000
謝礼金		30,000
手雑料		100,000
	費	20,000
	運営費合計	3,710,000
松苓会基金		
周年事業積立金		1,000,000
終身会員積立金		1,500,000
	小計	2,500,000
予備費		558,233
	支出の部合計	16,018,233

平成22年度

松苓会会計収支決算

(平成22年4月1日～23年3月31日)

◎収入の部		(単位：円)
		決算額
前年度繰越金		3,292,605
入会金		4,135,000
	小計	7,427,605
会費		
新卒者終身会費		9,825,000
既卒者終身会費		500,000
	小計	10,325,000
利息		13,712
雑収入		0
	収入の部合計	17,766,317
◎支出の部		
事業費		
卒業生懇親会費		800,000
松苓会報等発行		
印刷・制作費		730,485
発送費		531,061
「茯苓」発行費		414,692
	小計	1,676,238
支部助成		
支部運営助成費		1,262,615
支部報発行助成費		270,000
支部強化助成費		0
	小計	1,532,615
母校支援事業		
教育振興資金助成費		1,000,000
教育事業後援費		100,000
松苓会奨学基金		1,000,000
教育研究大会助成費		100,000
	小計	2,200,000
在学生支援事業		
学園祭助成費		50,000
課外活動助成費		150,000
県人会助成費		0
卒業記念品費		722,400
	小計	922,400
	事業費合計	7,131,253
運営費		
会議費		242,850
旅費・交通費		2,294,011
職務費		449,200
通信費		108,560
備品費		521,730
印刷費		59,850
消耗品費		37,318
慶弔費		10,000
謝礼金		32,680
手雑料		86,520
	費	0
	運営費合計	3,842,719
松苓会基金		
周年事業積立金		1,000,000
積立金		3,276,000
	小計	4,276,000
予備費		588,112
	支出の部合計	15,838,084
◎収支差額		1,928,233 (繰越金)

松苓会 各支部総会報告

平成23年7月～9月

北海道支部

8月27日

事務局長 山崎 郁紀

北海道支部総会が8月27日(土)、「シーマーケット札幌」にて開催されました。

今年度の総会では、10年以上にわたって支部長を務めてこられた奥村悠二郎支部長(36期)が沖繩県に転出されたことに伴い、新支部長として増井義昭氏(39期)が選出されました。

また、平成22年度決算及び平成23年度予算が承認されました。内容は別添のとおりですが、ここ10年間、皆様のご協力のもと健全財政が続いております。本当にご協力感謝します。

◇総会参加者(敬称略)

山崎 郁紀

(36期・支部事務局長)

増井 義昭

(39期・新支部長)

安部 初雄 (42期)

吉野 泰正 (55期)

若松 顕仁

(56期・支部事務次長)

安部 孝 (57期)

吉川 肇

(59期・道南分会幹事)

吉川真理絵

道南分会

(60期・道南分会幹事)
奥本 将晴 (64期)
富永 貴之 (65期)

初秋とは云え、急に気温が下り道内あちこちの山で初雪が降った10月1日、函館の朝市そばの「海光房」で、松苓会北海道支部道南分会総会が開催されました。

会は田島分会長の挨拶、増井新支部長の乾杯の音頭で始まり、和やかにと云うか、喧しく函館弁での近況報告で盛り上がりました。その圧倒的なエネルギーとローカル色豊かな話題に、初めて参加した増井支部長は自身普段は賑やかな人であるにもかかわらず非常に驚いていました。



シーマーケット札幌で開催

いらぬお節介を皆でやいておりました。参加していつも思うことですが、函館人は北海道の大阪人なのです、と札幌人は思うのです。

◇道南分会総会参加者(敬称略)

南部 知正

(37期・分会顧問)

田島 基義

(38期・分会長)

若狭 一也 (39期)

開原 正信 (39期)

古賀 俊治 (40期)

荒井 到 (51期)

吉川 肇 (59期・幹事)

吉川真理絵 (60期・幹事)

山崎 郁紀 (36期)

増井 義昭

(39期・新支部長)

吉野 泰正 (55期)

岩手県支部

7月31日

支部長 宮本 義孝

平成23年度、松苓会岩手県支部総会は、7月31日(日)午前11時から、「ホテルシタイプラザ北上」で開かれた。出席者は5名だった。畑功、小山尊史、瀬川孝三、目黒泰の4氏と宮本である。監事の小山さんには総会が始まる1時間前に来てもら



北海道支部道南分会

い、会計監査をしていただいた。昨年度は16万円ほどの収入に対し、およそ15万円の支出だった。支部活動は例年と同じく、総会・懇親会の開催と支部会報の発行だった。支部会報は4号まで出した後、3月11日に東日本大震災が起こり、特に県の沿岸市町村に生活する会員の被害状況や安否確認の報告などで特別に3号を出した。津波にさらわれ未だ行方不明の会員が一名、家を流失した方が四名、店舗や自動車を失った方が数名いたのは残念至極のことだった。支部活動活性化については、考え無きにしもあらずだが、本部の助成が総会開催と会報発行に限られ、また会員の協力にも問題がありそうで、



ホテルシティプラザ北上で開催

なかなか新しい試みに踏みきれないでいる。それから、来年度の支部総会は盛岡で行なうこと、総会案内や会報を送っても、まったく反応してくれない会員に対して、どう対処したら良いか、などが話に出た。最後に、今回は本部からの職員派遣がなかったため、畑さんから、松茶会並びに母校の近況を知らせてもらった。以上のような報告や話し合いの後、席を移して12時から3時迄懇親会をもった。ホテルは震災でロビーの景硝子が崩れ、また花見時の景勝地における観光客も七割方の激減で一ヶ月ほど営業を停止していたが、後片付けもすつかり終り、いつもと変わらぬ

静けさを取り戻していた。眼下には北上川が何事もなかったかのように悠然と流れ、その先遠くには緑を濃くした山々が幾重にも連なりつづき、川面を渡って流れ来る風の涼しさの中で、この一年、皆が無事であったことを喜び、それぞれ、学生時代の思い出やこれまでの生活の報告に花を咲かせた。

秋田県支部

9月3日

支部長 三浦 基

平成23年度秋田県支部総会は、平成23年9月3日(土)午後6時から秋田駅前のホテルメトロポリタン秋田を会場に開催された。例年高校教員の参加が多いことから夏季休業中の開催となつてしまい、前年度総会で9月第1土曜日開催案に落ち着き案内を出した。平成19年度からの支部長職だが、出席者は5名と最少であった。単に思い出を語るのではなく、現職の実践成果を持ち寄る講座制に取り組みたい。

◇支部総会出席者(敬称略)
野口 養吉(専門17期)
高橋 昭代(大学40期)



ホテルメトロポリタン秋田で開催

宮城県支部

8月19日

支部長 千葉 仁

三浦 基、奥山 陽子(支部長・大学41期)(監査・大学46期)永井しおり(幹事・大学54期)

日時 平成23年8月19日(金) 17時00分~19時30分
場所 ホテルJALシティ仙台(JR仙台駅の最寄り)
出席者 (J.R.仙台の最寄り) 菅原 淳子先生
国際政治経済学部長
文学部准教授

入試課長 五月女肇志先生
入試課 小西 明德先生
入試課 篠原 貴先生

支部会員

現役高校教員7名

OB会員2名 計9名

当日は午後から、大学の入試説明会と個別説明会が持たれました。その会の終了後に、同会場において同窓高校教員との懇談会が開かれ、それに便乗した形で宮城県支部総会を開催しました。

松茶会支部として、ぜひ参加して大学の現状・将来構想等をお聞きし、要望・請願等を申し上げ、同窓生の懇親・懇談を致しました。

一泊開放した件、東北地方出身で被災した学生に対する学費納入の軽減等の措置の件、松茶会の大震災に伴う義援金募集の件、林道部の学生たちが被災地でボランティアをした件等も伺うことができ、さすが学祖三島中洲先生の教えが堅守されていることに安堵しました。

大学側の「受験・進学・教育研究・就職」等の現状、将来構想等の懇切な説明を拝聴し、その充実発展ぶりに感心し安堵しました。新規に九段集約構想・中学校の開設を含めた将来構想等のご説明を伺いました。かねてから東北地方からは容易に入れなかつたこと、また教員を志望して入学・卒業しても、なかなか意が遂げられない実情にあるという問題点が話題になつておりましたが、大学のカリキュラム・教育システムの改善等の真剣な取り組みにより、徐々に実績が上がつて来た様子をご紹介され、今後の期待が大きいくくらみましました。その件に関する地方からの要望・提案等も出され、実りある話し合いができました。また、高校で中国語の授業を我が同窓生達が担当しているという新しいニュースが



ホテルJALシティ仙台で開催

紹介され、それに伴う教育的措置についても大学に要望しました。
また、支部総会は、若い同窓生も加わり、集まって情報を交換し励ましあい、職場の知恵や経験を親しく交わし、鋭気を養う、研修と懇親の大事な機会であり、またすばらしい教授、著名な学者に教わった至福な青春時代の強烈な思い出を語り合いたいという強い願望が、果たされない(出席者が固定化状況)寂しさを味わわれる、この松苓会の支部の状況の打開を強く念願している。そんな件も熱心に話し合われました。たとえば会員が出品した書道展や

各種発表会等にも松苓会員同士が押しかけて励まし合ったり、ふれあいの機会を多くしたりするようにしております。
◇支部総会参加者(敬称略)
犬飼 公之(32期)
菊池 純(42期)
二上 久芳(44期)
田代ひとみ(44期)
佐々木啓充(51期)
高橋 和己(51期)
高橋 健司(56期)
佐々木なつき(74期)
千葉 仁(27期)

山形県支部
7月9日
支部長 齋藤 裕

松苓会山形県支部総会を、平成23年7月9日に鶴岡市で開催しました。
総会には12名が参加し、本部からは松田存松苓会副会長にご出席いただきました。
総会では、
①事業・決算報告の承認
②平成23年度の事業・予算案の承認
③平成24年度の総会は、6月30日もしくは7月7日に鶴岡市で開催する
④総会で母校の先生の講演の企画を考慮すること
などを協議しました。



山形県鶴岡市で開催

埼玉県支部
9月4日
支部長 町田 哲夫

その後の懇親会では、専門学校18回生の先輩から大学67回生までの同窓生が、自己紹介を交えながら、世代を超えた親睦を深めることができました。また、子どもさんを連れての参加の方もあり、とても和やかな雰囲気でもありました。
今後の課題は、学芸面での研修を深めること、総会への参加者を増やすこと、支部報の充実を図ることなどです。
支部活動を開始してまだ三年にしかありません。全国の同窓会の先輩諸氏のご指導よろしく願います。

4日(日)、川越市東武ホテルにて平成23年度総会を開催しました。本部から大地武雄副会長の出席をいただき参加者12名ではありましたが有意義な時間を過ごすことができました。
開式にあたり町田哲夫支部長から今後の総会開催時期の固定化、総会開催に伴う事業の展開、会費の徴収方法、会員拡大の具体策、松苓会本部からの支部活動助成について説明がありました。
支部の総会時期については7月開催を固定化する方向で今後進めていくことになりました。併せて二松學舎大学の卒業生の会にふさわしい社会貢献事業も今後検討することになりました。
ちなみに次年度は方丈記八百年の年にあたりますので、講演会と併せて開催することを模索中です。また、会員の拡大については卒業生へのアンケートを実施し、埼玉県支部の活動を紹介し、会員登録を進めたいと準備中です。
現在会員からの入会者紹介のためのながきを準備して会員の拡大を図っていますが、そのためには支部の活動が魅力的なものでなければならぬと感じています。

最近、全国の各支部から、会報が届くようになりましたが、年間を通じて情報が発信でき、会員が活動に参加できるとに焦点をあてた会の運営を図りたいと思います。
◇支部総会参加者(敬称略)
青木 一弥(47期)
五十嵐 清(44期)
木村 誠次(39期)
小林 公雄(38期)
佐藤 修(41期)
柴田 京子(45期)
中居 功一(39期)
中山 大輔(71期)
町田 哲夫(42期)
三好 行雄(53期)
持田 賢一(40期)
八木 直也(42期)



川越市 東武ホテルで開催

東京都支部

7月2日

支部長 井上 和男

東京支部総会は、7月2日(土)午後2時に九段校舎にて開催された。中原敬二氏(62期)の司会でスタートした。議長に大淵俊明氏(50期)が選出され、議案の審議に入った。

平成22年度活動報告、平成22年度収支決算報告並びに監査報告、平成23年度活動計画案、平成23年度予算案が異議なく承認された。

次いで、役員改選が行われた。木村支部長より、支部長に井上和男氏(42期)が、監事に大山由美子氏(47期)と



大学九段1号館13Fで開催

菅原義博氏(53期)が推薦され、全員一致で承認された。井上新支部長の就任挨拶の後閉会した。

引き続き、生涯教育講座講演会が開催された。講師は、佐藤保二松學舎大学名誉教授で「明治漢詩と清国外交官」と題して明治期十年に來日した清国外交官と日本漢詩人との交流についてご講演いただき、感銘深い講演であった。

講演会終了後、13階ラウンジにて、懇親会に移る。

大山由美子監事(47期)の司会で、来賓の神津松苓会長のご挨拶を頂戴してスタートした。

今回初めて参加された会員からは、13階の素晴らしい眺めに、何度も感嘆の声が上がった。会も中盤になり、来賓の大地松苓副会長、辻千葉支部長、平野神奈川支部長、廣田前神奈川支部長、片桐神奈川事務局長の紹介があった。その後も美酒美食で盛り上がった後、約30年にわたって東京支部を、先頭に立って引っ張られた木村前支部長の挨拶があり、支部全員の思いがこもった花束の贈呈が行われた。木村前支部長の東京支部への思いに、万感胸にせまるものがあつた。

午後6時、盛会のうちに閉会した。

13階から見える東京スカイツリーのごとく、東京支部もさらに成長することを誓ったひとときであつた。参加者37名。

千葉県支部

8月6日

支部長 辻 将一

去る8月6日(土)午後3時より、千葉県庁前の喫茶「ボンヴィル」に於いて、「松苓会千葉県支部の集い」を開催しました。

来賓として、松苓会本部から副会長大地武雄氏(二松學舎大学中国文学科教授)、更に、神奈川県支部長平野光治氏、東京都支部幹事長片山聖英氏の3名をお迎えし、総勢20名の御出席を得ました。

総会におきましては、白熱した御質問、御意見等を賜り、今後の千葉県支部の発展とその活動の在り方に、大いなる活力を注入して戴けたものと衷心より感謝しております。

その後、懇親会へと移行。世代を超えた先輩・後輩の隔てのない会話、近況報告等を語り合いながらお互いの親密



千葉県 喫茶ボンヴィルで開催

さを増す和やかな雰囲気、中には、卒業以来の再会に驚嘆の一時、更には、後輩・母校への情熱溢れる発言等、時間を忘れてのあつという間の寛ぎでありました。「この会の存在が、新たな人間関係構築の一助と成り得るなら……」とその重責を再度実感させられた次第です。昨年以上に盛り上がった懇親会も、御開きの刻10時と為り、再会を誓って帰宅の途に就きました。出席戴いた方々には、改めて御礼申し上げます。

喫茶「ボンヴィル」の経営者、竹内恵子氏(大学34期)の御協力を得て4年目。来年も、この時期・この場所と予定しております。残念ながら、今年出席できなかった方は、来年こそ、是非とも御出席戴けるものと強く信じて、

切に御待ち申し上げております。

神奈川支部

8月14日

副支部長 中川 俊一郎

平成23年8月14日(日)残暑厳しい中、JR根岸線本郷台駅前にある県立地球市民かながわプラザにて、10時より第34回松苓会神奈川支部定期総会が開催されました。

平野光治氏の開会の辞に始まり、廣田克己支部長の挨拶の中で、23年度松苓会本部の副会長に決定した為、神奈川支部役員は来年改選であるが支部の運営を支障なく計る為、支部長に県央地区長の平野光治氏を、県央地区長に山口正樹氏を、又、長年にわたる県西地区長をされた田中憲明氏を顧問に、県西地区長として岩本明子氏をそれぞれ新役員候補者としたとの提案が出された。

議事進行に入り議長に前田明氏を選出し、平成22年度事業報告、同年会計報告が事務局長片桐佐和子氏から行われ、次いで監査報告が保田完治氏からあり承認されました。次に平成23年度事業計画、



県立地球市民かながわプラザで開催

同年度予算案についても承認されました。廣田支部長より発議された新役員人事の件も満場一致で承認され、すべての議事が終了しました。次いで恒例となった「文学歴史探訪」の計画案が、横浜地区長中川俊一郎氏より10月23日(日)「横浜山手地区異人館めぐり」の紹介が発表されました。

総会終了後、昨年も講演を依頼しました二松學舎大学学長渡辺和則氏による「国債の価値と貨幣価値」の講演があり、折りしも世界中を賑わせている国債と貨幣との関係について、大変明解なご講演を拝聴することができました。講演終了後、来賓・講演者ならびに参加者一同記念撮影をし、同プラザ内のレストランに席を移し、平野光治新支部長の挨拶と乾杯により懇談・昼食会に入り、来賓の松苓会本部会長神津賢一郎氏、東京支部事務局長神河秀春氏、静岡支部長永井陵次氏から丁寧な祝辞をいただきました。

- 来賓
 - 本部会長 神津賢一郎(27回)
 - 東京支部 事務局長 神河 秀春(47回)
 - 静岡支部長 永井 陵次(38回)
- 講師
 - 二松學舎大学学長 渡辺 和則
- 出席者
 - 東京支部 木村 正雄(25回)
 - 教員の会 入澤久美子(45回)
 - 鈴木 重男(50回)
 - 井坂 秀一(50回)
 - 原 寛(53回)

- 神奈川県支部
 - 支部長 廣田 克己(38回)
 - 副支部長 保田 完次(41回)
 - 副支部長 中川俊一郎(43回)
 - 顧問 井上 興正(27回)
 - 横浜委員 神谷 光信(52回)
 - 川崎地区長 小林 孝彰(38回)
 - 三浦地区長 前田 明(48回)
 - 県央地区長
 - 平野 光治(40回)
 - 保田 陽子(39回)
 - 山口 正樹(53回)
 - 網野 将美(64回)
 - 佐藤 馨 (政修5回)
 - 岡野 桜(72回)
 - 藤平 翔(80回)
 - 三浦会員 榎本 悦子(33回)
 - 事務局長 片桐佐和子(57回)

長野県支部 7月31日 支部幹事 江村 春彦

平成23年度長野県支部総会が、去る平成23年7月31日(日)にホテル信濃路(長野市中御所岡田町)において開催されました。支部総会には、法人・大学関係者の来賓として理事長大山徳高先生、総務人事部長五十嵐清先生、国際政治経済学部教授鈴木朝



ホテル信濃路で開催

生先生にご出席頂きました。県内同窓の出席者は、7名でした。

総会では、関保典支部長より本年3月11日の東日本大震災とそれに関係する事故等で被災された方に対するお見舞いの言葉と挨拶があり、続いて大山徳高理事長より法人及び大学の現況や今後の進んでいこうとする方向性についてお話がありました。議事については、平成22年度活動報告、会計報告、さらに平成23年度予算案が満場一致で承認されました。また、本年度は役員改選の年であり支部長より現執行部留任を提案したところ、これにおいても了承されました。

議事終了後、出席者より支部活動の活性化や総会出席者を増やすための意見が出されました。その意見では、広い面積を持つ長野県の四地区(北信・東信・中信・南信)や卒業年度ごとの代表者を決め、転居・転勤をできる限り把握したり、支部総会に誘い合いながら出席すること、支部総会を北信以外の他地区でも開催することが提案されました。これは、現在の役員と支部総会が県庁所在地の長野市がある北信を中心としていることからのものと思われ、また一方では、過去の他地区での総会実施の経験や役員同士が身近であることの利便性についても意見が出されました。関支部長は、提案を真摯に受け止め、できるところから取り組むことを話されました。

総会終了後、鈴木教授より「翻訳語と漢字―社会科学の場合―」と題したご講演をいただきました。懇親会では出席者全員が一入一言ずつ自己紹介を兼ねた近況報告や母校への思いなどを話すなど、和やかな雰囲気の中で終えることができました。

島根県支部

8月20日

支部長 江角 仁

島根県支部総会を次のとおり開催した。

一、日時

8月20日(土) 11時～15時

二、場所

サンラポールむらくも(松江市)

(記念撮影)

三、開会の辞

四、自己紹介

五、支部会開催までの経緯について

支部長経験者から、これまでの島根県支部会の状況について伺う。

六、今後の支部会について

出席者や欠席者からも支部会を継続してほしいという意見が出された。

また、支部会の「会則」の作成や「名簿」の精査等、今後取り組まなければならぬ課題について話し合われた。

(休憩)

七、懇親会(昼食をとりながら)

今回出席した会員は、一部を除いて、松茶会(松茶会)の一員として顔を合わせる

せるのは恐らく初めてであったろう。

しかし、二松學舎大学で学んだという気持ちや、親子ほどの年齢差を意識させることもなく、一体感を生み、楽しく、充実した一時を過ごすことができた。

八、閉会の辞

◇出席者 八名

24期生、28期生、39期生、40期生、47期生、49期生、52期生、63期生 各1名

男性6名、女性2名

当日は、暑い日ではあったが幸い欠席者もなく、ほぼ当初の計画に沿って開催することが出来た。

ただ、曜日については、日曜日開催の方が出席者がより多くなつたかもしれない。

大分県支部

8月27日

支部長 加茂 忍

8月27日(土)、別府市亀川、割烹かみ川にて大分県支部総会開催。出席者10名。

●平野芳彦(専14) 88歳元気。毎日8000(八千)歩を目標にしっかり歩いていきます。7月30日に杵築高校東京同窓会に参加。終わって千鳥ヶ淵戦没者墓苑参拝。二松學

舎の前を歩いて靖国神社を参拝して参りました。

●畔津真知子(文34)

是本信義氏と参加、是本氏一年に一回の楽しみ・・・。

●阿部誠文(文36)

九州女子大学退職後、脳梗塞、肺炎、胸膜炎を合併して癒着入院。この4月から普通に歩けるようになりました。二年間に死を二度経験して生き返った様なものです。

●加茂忍(文36)

9月21日から26日迄大分市アートプラザに金子清越門下自詠自書小品展と漢詩講座同時開催。

●河野潔(文40)

教育長としての仕事も充

実、忙しい毎日です。

●伊藤公祥(文41)

3月定年となりましたが再任用されて引き続き別府郵便局で仕事をしています。

●富藤馨信(文43)

養護三校の校長です。入学式等学校行事が大変です。職員方は80名。職員会議等、すべて3回ずつです。

●中井則夫(文47)

OB4名の代表として参加しました。6月大東文化大学の漢学者坂本担道氏の卒寿祝いに妻と共に上京いたしました。

●甲斐啓一郎(文52)

杵築高校勤務三年目。松茶会大分支部二度目の幹事中。支部長より総会報告の後、乾杯。参加者各自の近況報告にて解散いたしました。

宮崎県支部

8月27日

支部長 宮崎 宣幸

当松茶会宮崎県支部総会を8月27日(土)実施しましたので報告致します。

4月当初に松茶会報(本部)を送付した際に案内を(20名)、再度7月29日に宮崎県支部総会の案内をしましたが、住所不明で返却された



宮城県 雲の平で開催

葉書や、電話連絡して本人が県外に就職している会員も多く、結局4名参加のみでした。しかし、内2名は初めての参加で、今後協力してくれそうので、頼もしく感じました。

4人という少人数ではありましたが、皆さん学生時代を思い出し、楽しい一時を過ごせたのではないかと思います。毎年続けて、できるだけ多く参加していただければと思います。今後ともご指導、ご鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

**卒業生
ホームカミングデー**
平成23年11月3日(木)
13階 ファカルティ・ラウンジ
【受付】14:00～
【懇親会】14:30～16:30

○○○○ 卒業生作品展示会 ○○○○
書・写真・彫金・書籍
平成23年11月2日(水)～4日(金)
10:00～15:00 11階 会議室

2011年度

平成23年11月3日(木)
ホームカミングデー

参加者162名

幹事長 神河 秀春



懇親会会場 (九段校舎1号館13階)

本年度のホームカミングデーは、11月3日(木)、大学九段校舎で開催された。昨年までは、8月の第一日曜日の開催であったが、今年度は、後輩である学生との交流を持つ意味もあり、本学の学園祭である「創縁祭」にあわせた開催となった。

七回目となった今回は、午後2時30分に13階のラウンジで開会式が行われ、神津松苓会会長、渡辺学長の挨拶があり、本年9月1日に就任された水戸理事長からは祝辞を頂戴した。

引き続き行われた懇親会では、卒業後5年ごとの卒業生が、あちらこ



卒業生作品展示会 (九段校舎1号館11階)

渡辺和則学長の挨拶

ちらで在学時の出来事を思い出しながらの歓談で盛り上がりつつあった。本学名誉教授の方々も多数参加され、卒業生と、ゼミ合宿での出来事など、昔話に花を咲かせていた。

卒業生による、書・絵画・彫刻・写真等の「作品展」も11階会議室で11月2日～4日まで開催され、大変好評であった。

一年に一度、卒業生が集まることのできる「ホームカミングデー」は、学内の実行委員諸氏にとつては、事前準備などで大変な業務をおかけすることではあるが、本会こそ二松學舎大学を発展・継続させる大切な会であることを再認識した一日であった。

参加者の声

◆原 知美さん (文学部 第59回卒)
ホームカミングデーに参加すると、先生や懐かしい仲間と再会することができてすごく楽しい。今回のように、創縁祭と同時開催するのはとても良いと思う。

◆面川 明子さん (文学部 第59回卒)
初めての参加で、どんな様子なのかわからず、はじめは少し不安だったが、懐かしい人たちに会うことができ、とても楽しい。

◆中沢 力也さん (文学部 第69回卒)
たまたま創縁祭に来て参加した。創縁祭と同時開催だと参加しやすく良いと思う。先生や旧友と会える機会があるのはうれしいことだ。

◆駒井 伸彦さん (文学部 第78回卒)
卒業してからは、母校を訪問したり、恩師の原先生にお会いすることがなかなかできないので、こういう機会を設けてもらえる大変うれしい。

◆高橋 映子さん (文学部 第53回卒)
ホームカミングデーへの参加は、今回で二回目。職場は大学からそれほど遠くない場所にあるが、大学を訪問するのは難しいので、年に一回といわず、卒業生が集まる催しを今後も続けてほしい。

各委員会報告

役員候補者選考委員会

平成23年7月31日付で旧役員の任期が満了することに伴い、昨年11月6日より松苓会役員候補者選考委員会で審議してきた。

審議経過は、次の通り。

第一回役員候補者選考委員会
日時 平成22年11月6日(土)
会場 九段校舎一・二〇一会議室

出席者 山崎 郁紀幹事
齋藤 裕幹事
小林 公雄幹事
木村 正雄支部長
廣田 克己支部長
辻 将一支部長
奥井 基継常任幹事
平岡才二郎常任幹事
井上 和男常任幹事
大地 武雄幹事
緑川 佑介事務局長
(前回役員候補者選考委員会の概要説明時のみ)

委員長選出 廣田 克己氏
(神奈川支部長)

議事 選考方法

「役員候補者選考委員会規程」に基づき、会長1名・副会長2名・監事2名の候補者を選出することを確認した。

第二回役員候補者選考委員会
日時 平成22年12月4日(土)
会場 第一回と同じ
出席者 第一回と同じ
議事 各委員からの会長候補者の推薦。会長候補者の意思確認。副会長・監事の選出方法について確認した。

第三回役員候補者選考委員会
日時 平成23年1月29日(土)
議事 次の役員候補者が選考された。

会長候補者 神津賢一郎氏
副会長候補者 大地 武雄氏
廣田 克己氏
磯 水絵氏
奥井 基継氏

常任幹事会

第一回 常任幹事会
日時 平成23年5月28日(土)
12時半～15時
会場 九段校舎12階会議室

- (一) 22年度事業報告
- (二) 22年度収支決算報告
- (三) 22年度監査報告
- (四) 23年度事業計画(案)
- (五) 23年度予算(案)
- (六) 役員改選について
- (七) 学校法人評議員の選考について
- (八) 松苓会会則の改正について
- (九) 松苓会奨学金貸与規程について
- (十) その他

諸報告
(一) 東日本大震災の義援金について
(二) ホームカミングデーについて

第二回 常任幹事会
日時 平成23年10月15日(土)
12時半～14時
会場 九段校舎12階会議室

- (一) 松苓会本部役員について
- (二) 松苓会常任幹事について
- (三) 東日本大震災被災学生への対応について
- (四) ホームカミングデーについて
- (五) その他

諸報告

- (一) 学校法人二松学舎の役員改選について
- (二) 支部総会開催状況について
- (三) 松苓会報編集委員会について
- (四) 松苓会活性化委員会について
- (五) その他

活性化委員会報告

数年前にも活性化委員会が設置されたが、昨年第二次ともしうべき活性化委員会が発足した。これまで実施された会議の検討内容の概略を報告する。

検討内容は①本部、支部のあり方②卒業生・在校生への

アプローチ方法③組織・財政・活動についての見直し等を行なうというもので、平成23年3月に第一次答申、平成23年12月に第二次答申を行い、平成23年、24年度の松苓会事業に反映させるというものであった。

一次答申は平成23年度事業に反映されたホームページを立ち上げ、会員とのネットワークを作ることであった。

具体化の検討は継続し、予算措置が平成23年度総会で承認された。しかし、この総会で役員改選があったために委員の交代があり、第二次答申に至らなかった。来年度に継続することも含めた検討を今後行なう予定である。

【会議】

- 第一回・平成22年12月4日
- 第二回・平成23年1月29日
- 第三回・平成23年3月5日
- 第四回・平成23年4月9日
- 第五回・平成23年10月8日

【平成22年度委員】
辻 将一(委員長・千葉県支部長)

大地武雄(幹事長)
緑川佑介(事務局長)
小林憲二(常任幹事)
齊藤裕一(幹事)
廣田克己(神奈川支部長)
【平成23年度委員】
辻 将一(委員長・千葉県支部長)

東日本大震災 義援金について

三月十一日発生の東日本大震災の義援金をお願いしましたところ、秋田県・新潟県・群馬県・長野県・山梨県・栃木県・埼玉県・東京都・神奈川県・静岡県・広島県・大分県・福岡県・鹿児島県・沖縄県各支部から計三十二万七千九百二十円、本部(学内を含む)七万四千七百二十二円、合計、四十万二千六百四十二円が寄せられました。厚く御礼申し上げます。

当初、日本赤十字社を通じて被災地へ送金する予定でしたが、本学学生も五十五名被災しており、家屋全半壊の本学学生十七名に各三万円を助成することとしました(定期総会で了承済み)。不足金は松苓会本会計より充当することとします。

御理解・御協力に心より感謝申し上げます。

作詞家 水木かおる氏 旧蔵資料



本学専門学校17回卒業の作詞家、故水木かおる氏（本名・奥村聖二）の資料展が二松學舎大学九段一号館地下二階で開催され、懐かしいレコードジャケットや愛用品、レコード大賞盾、賞状などが展示された。同氏は昭和37年「アカシアの雨がやむとき」（西田佐知子）で第四回日本レコード大賞特別賞受賞。その後、昭和48年「くちなしの花」（渡

哲也）、昭和五十三年「みちづれ」（牧村三枝子）など、数々

のヒット曲を作詞している。

資料展後も二松學舎大学柏図書館の法人資料室には、水木かおる旧蔵資料が展示されている。同図書館ではこの他、関係図書で「水木かおるコーナー」を設置し、図書館カウンターに声をかけると閲覧ができる。

水木かおる氏 略歴

本名、奥村聖二。大正15年7月14日、東京府豊多摩郡落合町に生まれる。昭和22年、二松學舎専門学校卒業（第17回）。文芸通信社を経て、昭和33年

に日本グラモフォン（ポリドール／現ユニバーサルミュージック）に専属入社、作詞活動へ。昭和56年退社後、フリーに。以後、数々の賞を受賞。平成10年7月4日没。享年71歳。

寄贈図書紹介

平成23年度の寄贈図書は、次のとおりです。（10月31日）

- 「時代劇全盛時代」岸元史明著 国文学研究所（二〇〇〇円）
- 「廃墟の戦後に燃える」アヴァン・ギャルド「火の会」の活動とその軌跡」永淵道彦著 双文社出版（三六〇〇円＋税）
- 「紫式部の信号 上」岸元史明著 国文学研究所（三〇〇〇円）

訃報

柴田 周蔵殿

（顧問・名誉教授・専門学校3回卒）

平成23年9月26日（月）逝去。享年100歳。通夜ならびに葬儀・告別式は、故人の遺言により執り行いませんでした。柴田先生は、昭和8年3月に二松學舎専門学校を卒業され、同30年10月に学校法人二松學舎



理事ならびに評議員に就任。同50年9月に常任理事に選任されました。その後

昭和62年8月まで10年にわたり常任理事を務められました。

教学面では、学生部長、教務部長を歴任。昭和57年からは、沼南校舎（現柏校舎）学監、同60年からは同校舎督学を務めるなど本学の発展に大きく寄与されました。

昭和61年3月に教授を退任し、同年4月名誉教授の称号が授与され、昭和62年8月任期満了により、常任理事を退任。同年9月、学校法人二松學舎顧問に推戴されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

表紙写真

平成16年3月に竣工した大学九段校舎。大学は平成23年4月現在、卒業生：25,001人。在学生：文学部2,019人、国際政治経済学部1,004人、大学院文学研究科65人、大学院国際政治経済学研究科9人の学生・院生が在籍する。

編集後記

①改革の継続と推進、②大学との協調をスローガンにして第二期目の神津賢一郎会長の松苓会がスタートした。若返りという意向もあり、大幅な役員交代があった。これを機に我が松苓会報も全面的に一新することになった。文字を大きくし、ページ数を増やし、カラーにした。中でも表紙は二松學舎大学らしさを出す工夫をした。紙面は支部活動だけでなく、本部の活動報告を定例化したい。ご覧になって如何でしょうか。率直なご意見をいただきたい。

題字／第45回卒 辻 将一氏

二松學舎
松苓会報
No.45

創発編住電振替口座印
刊行集所話替口座刷
昭和62年12月1日
平成23年12月10日
二松學舎松苓会
〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16
03-3261-7408
00180-5-160343
（株）サンセイ
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-11-10
TEL.03-5614-2515